

公益社団法人信和会 2019年度事業活動・経営報告(抜粋)

2020年5月18日 法人決算監査
2020年5月19日 法人常務理事会
2020年5月26日 法人理事会

【1】事業活動報告

(1) 事業活動の概況

2019年度は、全体スローガンを「学ぶ・共有する→発信する・連携する・協働することの力で、法人事業とまちづくりを進め、くらしと平和と憲法を守る好循環を作り出そう！」とし、質の目標・事業の目標・組織強化と理念的活動の目標の3つの大きな柱を設定し、具体化するための部署、分野を明確にしました。公益事業として認定されているあすかい病院や茶山のさとはもとより、公益社団法人としてのガバナンスを遵守し、無料低額診療事業や社会貢献活動など公益的活動をより重視して取り組みました。

2019年度法人目標

(ア) 質の目標

- ① もっと伝えよう、医療介護を届けたい先へ、連携したい相手へ。私たちのこだわりを、つながりの持つ強さを
1. 法人内外を問わず、患者さん・利用者さん・連携事業所に、自分達の伝えたい魅力やメッセージを決める。
2. 特に共同組織との連携を強め、どんな人へ、どれだけ、どうやって伝えるかの目標を持つ。

(イ) 事業の目標

- ① 特に健診・初診・新規利用者の獲得の具体的な目標・方法と第二中央病院南館リニューアル完成の新たな条件を意識しつつ、予算を達成する。
- ② 東山リニューアル着工を準備する人的・財務的条件づくりを進める。
- ③ さらに続くべき事業を法人中長期事業計画として策定する。

(ウ) 組織強化と理念的活動の目標

- ① 対応する共同組織・ないしは、法人外のいずれかの地域・団体と、啓発・保健予防・健康づくり・健康増進いづれかに該当する取り組みを前年より一つ増やそう。
 - ② すべての部署(事業所)が、SDHを学び、事例や身の回りの健康維持増進との関係を考える場を持つ。
 - ③ 会費問題を含む共同組織のあり方について調査研究しながら課題整理し、方針を提案し検討を行う。
- 以上、3つの大きな柱を目標に掲げて実践しました。

法人目標を踏まえた予算の柱は、2019年度法人目標を確認した上で、2018年度決算見通しと資金予測を前提に、資金計画でポイントとなる①減価償却費の増加②建設費用の返済③増加する退職金④年間投資などの要素を反映させ、安定的に運用ができる期末での現預金残高を試算。現預金残高には上記費用とあわせて、東山建設費用3億・協力金返済に関連する銀行返済なども加味し、必要最低利益1億円・年間投資(通常投資5000万+中長期2500万)と決定しました。

社会保障・税一体改革により格差や貧困がますます拡大し、受診抑制となって患者になれない事態が進む中で、公益社団法人としての活動をより重視し、無料低額診療事業や社会的貢献活動などを更に実践しました。

各エリア・事業所・各領域の事業のポイントは以下の通りです。この視点から、エリア・事業所の年間到達の分析と総括、次期に繋がる課題を鮮明にする必要があります。

詳細は、添付した別紙事業所報告を参照してください。

エリア・事業所	2019年度事業・予算のポイント
あすかい病院 エリア	<2019年度京都民医連あすかい病院エリア目標 スローガン> さあ、スタートだ。京都民医連あすかい病院、新しい機能と体制で。私たちは、患者さん、利用者さん、地域の皆さんと「共に生きるための伴走者」となろう。だれも置き去りにしない医療・介護の実践を、魂(DNA)を引き継ぎ、医療・経営・運動・人づくりの新しい歴史をみんなで創りあげよう。 病院エリアの目標を以下4つの柱を設定して実践します。

	<p>#1 南館リニューアル完成。新病院の医療機能を最大限に活用してエリアの予算達成を実現する #2 病院エリアの医療と介護が一体化して機能するようにする。 #3 病院エリアの医療・介護の安全と質の向上 #4 人材の確保と養成、離職防止</p> <p>病院エリアは南館リニューアル事業が完了し、新たな機能のフル活用で経営構造の転換を一気に進めなければならない。2019年度予算は、まず事業利益で黒字を確保することを目標。</p> <p>□あすかい病院 (入院分野概要)</p> <p>1. 診療報酬改定年度ではないため、基本的には2018年度実績に基づいた日当点をベースとしている。</p> <p>2. 2018年12月1日付けで南2階一般病棟を34→43床化、及び南3階で緩和ケア病棟をスタートした。これらは運用開始から2ヵ月を経過したところであり、実績値の蓄積はまだ乏しい。</p> <p>3. 収益の大きな柱であるリハビリテーション部分が、人員確保の困難さから今年度実績に及ばない見込みとされているため、収益予算上の打撃も大きくなっている。</p> <p>(外来分野)内科は、1単位で20名を目指す。日当円も8,600で設定。その他の診療科は実績ベースを基本としている。全体として2018年度予算比2%増。外来の診療体制が確定しておらず、今後の医師配置で外来単位も変更される可能性がある。初診や新患を増やすことがカギとなる。南館リニューアルを知らせ、患者確保を行うには、広報などと合わせ、共同組織と連携した地域訪問や連携事業所訪問などが必要。</p> <p>(在宅分野)＜目標＞病を抱えても、希望する場所で最期まで安心して過ごせる地域づくり。</p> <p>2019年度目標収益と件数・新規件数目標150件/年・看取り件数30件/年(在宅のみ)。訪問件数600件/月、内緩和ケア訪問件数26件/月。</p> <p>(保健予防分野)インフルエンザワクチン収益増。健診件数3%増、単価6%増。</p> <p>(介護分野)診療報酬改訂なし。訪問リハビリの2019年度は、訪問枠は2018年度を維持。</p>
川端診療所 エリア	<p>[川端診療所]</p> <p>外来は、2018年実績への回復+4%増(外来/月次、件数541件、延数707日)の達成を目指す。地域は高齢化により通院困難な状況がすすんでいる。患者の利便を図り受診に結びつける。在宅は、診療所医師体制の課題等や病院往診センターへの一定の集中化で減少が予想されるが、外来患者の在宅への移行が必要な方へ、引き続き管理を行い月次30件の管理を目標とする。透析は、2017年度実績への回復+1%(月平均93件)を目指す。透析の新患確保のため大学病院や府立等とのつながりや中央病院との医療連携も引き続き継続する。病院とあわせて信和会は50床を超えるベッドの強みを患者増に結び付けていく。</p> <p>[鍼灸治療院]</p> <p>2018年度達成できなかった収益目標3240万円に再度チャレンジしていく。外来は、近隣の競合する治療院の増加などにより今年度の収益を維持し技術向上による患者満足度を高め将来的な患者増につなげていく。往療は特に保険報酬があがった2km以内の往療をターゲットとし、収益構造の効率化を行ない今年度比+15%を目指す。</p> <p>[左京南地域包括支援センター]</p> <p>①京都市運営委託料は年間26,350千円(18年度同様) ②給付管理請求件数は月々248件を見込む。 ③認定調査料件数は月々20件を見込む。</p>
東山診療所 エリア	<p>[東山診療所]</p> <p>①外来収益(通院)は患者件数2018年度平均(505件)の維持。前年度方針を堅持する。診療体制は前年度維持、慢患管理、神経内科、フットケア外来など診療所の特色をアピールする。慢患管理の徹底で件当点を10,000円以上の維持。中断患者対応や気になる患者訪問、法人減免相談や諸制度の活用など相談活動を積極的にすすめ、SDHの視点から患者の受療権を守る活動を友の会とも共同し取り組みます。第一日赤や京大、京都民医連あすかい病院との連携をつよめます。友の会会員からの紹介も多くあります。友の会や地域の方、ケアマネからの紹介も重視し、診療所の特色や機能など共有します。患者満足度を向上させ、送迎サービスや接遇改善で一度来られた患者さんを減らさない努力をします。</p> <p>②外来収益(在宅)は、件数の前年実績維持。患者の高齢化、重症化により中断、終了も多く入れ替わりが激しい。なかで京大や第一日赤、京都民医連あすかい病院との連携を更に強化する。体制の強化が</p>

	<p>必要となっている。</p> <p>③保健予防収益は、事業所・団体健診は減少傾向。呼吸器の医師体制などの点から塵肺健診の継続についてどうするか検討をしています。友の会健診は、共同組織と協力して、会員への受診勧奨を積極的に進め前年度比10%増を目標とします。</p> <p>④介護収益(通所リハビリ)は、介護職員体制の確立と育成、リハビリの強化と利用者満足度を高める努力、空き情報の発信、ケアマネとのコミュニケーションを重視し、通りハだより(仮)の発行をします。エリア内の医療分野と介護事業所の連携強化を図り、介護系サービスの利用をより引き上げていきます。</p> <p>[訪問看護ステーションどんぐり]</p> <p>他医療機関や居宅介護支援事業所への広報活動、共同組織への事業活動の紹介など積極的に展開する。</p> <p>[ヘルパーステーションくるみ]</p> <p>現行のシフトを維持、人員体制は毎日実働3.2名体制、身体介護中心に件数を確保、空き情報を定期的にCMに発信、ヘルパーの確保は引き続き努力する。</p> <p>[泉涌寺湯ダイサービスセンター]</p> <p>月平均延数416件(前年実績比111%)を目標とする。新規受入れを積極的にすすめるために、空き情報等をタイムリーに発信する。昨年度は16人が体験利用し12人が利用につながった。利用者向け「たより」を事業所向けにアレンジし、居宅介護支援事業所に持参しアピールする。</p>
洛北診療所	<p>①安定した経営をめざそう。収益確保は、外来▶2018年度維持。月平均550件目標に。二次健診の促進をマニュアル化する。保健予防▶予防接種件数は2018年度維持。健診件数は5%増(25件)共同組織の協同し健診数を伸ばす。在宅▶管理件数平均52件を維持・職員全員で取り組む経営改善</p> <p>②質の向上をめざそう。安心、安全の医療提供、SDHの視点を大切に。</p> <p>③地域に信頼される診療所づくり、洛北診療所の役割を發揮する</p> <p>④地域連携強化</p> <p>⑤職員育成・教育</p>
大宅診療所 エリア	<p>[大宅診療所]</p> <p>(1)2018年度外来件数を維持し保険予防で収入増を図る。</p> <p>(2)在宅件数75件を必ず確保する。</p> <p>(3)通りハ・大宅エリアの力を結集し紹介活動を強め年間を通じて利用者増を図る。</p> <p>[ケアプランセンター虹]</p> <p>経営改善⇒2017年度▲10872/千円⇒2018年度▲9192/千円(見込み)⇒2019年度▲8772/千円予算目標、3年連続赤字減を達成する。</p> <p>①月平均15時間、管理件数目標の到達しない場合は10時間を目途に月単位での残業時間短縮を図る。</p> <p>②在宅・介護分野牽引のキーパーソンとしての役割を果たしてもらう。経営成績に直接反映しない実績(エリア内事業所への紹介活動)を数値化し事業所の存在価値を高める。</p> <p>[訪問看護ステーションひまわり]</p> <p>新たに師長登用し看護師6名体制を確立する。非常勤看護師8/11単位、非常勤専任事務4/11単位を追加配置し将来を見据えた事業展開を確立する。3年後には恒常的な黒字事業所への転換を図る。</p>
茶山のさと	<p>①入所、短期入所あわせて1日平均67床を目標にする。2018年度も同様の目標を掲げたが、短期入所のベッドを減らすことがなかなかできなかった。下半期に入り減少が見えているのでこのままコントロールし、2019年度につなげる。</p> <p>②短期入所のベッドは減らし、入所を安定的に埋める方針。</p> <p>③通所リハと予防通所リハとで、目標値を分けた。引き続き1日利用者数目標28人を目指す。</p> <p>その他収益もあわせ、事業収益計: 42,654千円/月を目標にする。(2018年度予算比101.7%)</p>

以上の事業と経営計画を進めるため、法人は法人常務理事会の下に以下のプロジェクト(チーム)を設置し推進を図りました。

<事業展開>

- ①信和会中長期事業計画(案)策定PJ 骨子(案)を理事会・社員総会へ報告
- ②東山新築移転プロジェクト 理事会へ報告
- ③幹部人事検討PJ 理事会へ報告

④共同組織あり方PJ 理事会へ報告

<機能と運営>

①他法人との共同・連携を語る懇談会 随時開催し継続

②ISO 課題の推進 随時開催し継続

(2) 事業計画・目標の実践と到達

品質目標の到達評価と課題整理は、四半期毎の到達分析と次四半期課題整理を毎回の理事会運営の中で鮮明にして取り組みを積み重ねました。2019 年度目標を検討する上では、第 3 四半期までの到達を踏まえた課題設定がされました。併せて、到達と課題に関する分かりやすい共有が促進されました。2019 年度目標に関する到達は以下の通りです。

大きな柱	小項目	年度到達と評価
<p>(ア) 質の目標</p> <p>① もっと伝えよう、医療介護を届けたい先へ、連携したい相手へ。私たちのこだわりを、つながりの持つ強さを。</p>	<p>1. 法人内外を問わず、患者さん・利用者さん・連携事業所に、自分達の伝えたい魅力やメッセージを決める。(共通課題)</p>	<p>[あすかい病院エリア]</p> <p>2019年4月病院名変更、院長交代を素早く患者さん、友の会、地域に知らせる。南館リニューアル後の京都民医連あすかい病院の医療機能を知らせ広める。とりわけ新規事業の緩和ケア病棟を知らせていくという課題に対し、①病院名変更・院長交代お知らせビラ2000枚窓口配付②3行政区の友の会会員にビラ同封、計10,000枚③透析学習会(4/18)開催、介護事業所から21名参加④大文字勉強会(4/20)26名参加(過去最高)当院の医療機能と緩和ケア病棟の紹介⑤緩和ケア病棟紹介、病院・診療所訪問⑥京都左京健康友の会総会(5/26)「友の会の皆さんと一緒に未来をつくりたい」中川院長講演、下之内副院長が緩和ケア病棟でのボランティアについて発言、120名参加。⑦新日本婦人の会左京支部健康講座「いつでも元気な女性でいたいがん予防と骨折予防」中川院長、病院機能とあわせ講演、27名参加⑧8/7 高野包括支援センター養正養徳地域ケア会議、中川医師講演「人間はやっぱり一人では生きていけない」を行った。南3緩和ケア病棟は、8月ぐらいから90%以上の稼働となり収益も予算に近づいてきている。緩和ケア病棟の性格上、ベッドコントロールが非常に難しく一気に空床が発生する。12月から緩和ケア病棟院料Iの類上げを行い収益は確実に上っている。</p> <p>[川端診療所エリア]</p> <p>安心・安全の医療・介護を提供できる事業所でありつづける職場、環境づくりを行う。すべての部門(部署)で医療・介護の安全、質の向上を優先課題として取り組む目標をもった。透析は定期的な学習を継続しているが、介護系ではできていない。特に新型コロナウイルスの感染防止、医療の安全を最優先としてエリア全事業所でその予防に取り組んでいく。</p> <p>[東山診療所エリア]</p> <p>5/30(木)総括会議に向けて全職場が「魅力やメッセージ」を決めている。各事業所部署で広報活動や共同組織との共同行動で交流を深め、地域に広める。広報委員会を軸に広報活動を強化する方針をもった。ホームページの開設は出来たが、広報委員会は開催出来ず。来年度の課題とする。</p> <p>[大宅診療所]</p> <p>○年度を通じて魅力を発信する。顕著だったのは待合掲示物、その評価基準をパンフ持ち帰り数にとり、可視化で来た事。半面連携事業所への発信は出来なかった。</p> <p>○HPは健康診断予約等わずかずつではある更新している。エリア全体での計画的運用が出来ていない。</p> <p>[洛北診療所]</p> <p>今年度は医療懇談、学習会など地域の要求にあった内容の取り組みができている。患者以外の参加も多くみられている。</p> <p>[茶山のさと]</p> <p>年度を通じて「魅力」について問い続けたのではないかと、思われる。明確に「魅力」を「発信」するには至らなかったが、日常的に営まれる自分達の仕事に、発信</p>

		<p>に足る魅力があることを一定共有できたのではないかと。一方で「発信」に関しては、十分な検討はできなかったが、地域と結んだ取り組みへの関わりが増え、実質的に発信できていると感じる事例もあった。年度の終盤で、地域とのつながりや家族会等の機会がなくなったことは残念。</p>
	<p>2. 特に共同組織との連携を強め、どんな人へ、どれだけ、どうやって伝えるかの目標を持つ。(共通課題)</p>	<p>[あすかい病院エリア] 外来診療管理会議と友の会役員会で検討を重ねた。地域の開業医、医師会などへの配慮で再調整。左京健康友の会の名称で作成する方向継続検討。</p> <p>[川端診療所エリア] 憲法を守る運動を全職員で取り組むとともに、人権を守るための社会保障運動、平和運動等の課題を地域と共に作っていく目標をもった。職場(部署)ごとに学習会を行っているが、事業所全体とした学習活動にはなっていない。総会方針の学習と並行して人権学習を全職員で取り組んでいく。</p> <p>[東山診療所エリア] 各職場が共同組織活動への参加や友の会だよりへの投稿や事業所ニュースの同封依頼、友の会と共に地域訪問計画。地元町内会への無低事業の紹介など民医連外との学習会の計画。月間での旺盛な活動と信和会デーに取り組んだ。毎月の役員会で診療所エリア報告を行い、意見交換を行った。</p> <p>[大宅診療所] ○年度を通じて幾つかの部署で新しい職員が参加する様になり自らの共同組織の在り方が再認識された。</p> <p>[洛北診療所] ホームページ更新内容は診療体制変更・健診・企画案内など掲載。診療所掲示板、通信発行など洛北診療所の活動を発信→懇談会の案内を随時掲示し、地域に周知し参加に繋がる。居宅介護事業所訪問ができておらず、往診パンフレットの活用が不十分。</p> <p>[茶山のさと] 前項にまとめた。</p>
<p>(イ) 事業の目標</p>	<p>① 特に健診・初診・新規利用者の獲得の具体的な目標・方法と第二中央病院南館リニューアル完成の新たな条件を意識しつつ、予算を達成する。</p>	<p>[あすかい病院エリア] 南館リニューアル後の初年度として経常利益予算を達成、本体の事業利益で10月から黒字に転じ、事業利益で黒字を確保した。確実に経営改善が進んでいる。</p> <p>[川端診療所エリア] 年度末決算で診療所は予算到達、鍼灸、南包括は予算未到達。外来は減少、透析はほぼ予算通り。外来収益の減少に歯止めがかかっていない。介護分野は通所リハが予算超過。診療所は特に費用関係、人員体制の不安定(透析)があり、結果人件費が圧縮された。包括はわずかながら予算に届かなかった。</p> <p>[東山診療所エリア] あすかい病院への患者紹介。健診、初診、新規利用者 10%増を目標とした。初診患者は4月～3月で前年比551件/508件で108.4%、新規患者は前年比95件/87件で、109.1%となっている。初診患者数・新規患者数共に昨年実績を上回る結果となった。新規患者については、友の会の役員からの地域への宣伝の効果もみられる。</p> <p>[大宅診療所] ○健診・初診・新規利用者は全事業所・部署で増加している。旧ステーション設立以来、初めてエリア予算目標を達成した。 ○南館リニューアルを支える取り組み具体策が実行出来なかった。</p> <p>[洛北診療所] 外来、平均件数510人のため、目標件数に届かず。前年度比較約1割の患者減。健診、目標420件→367件に留まった。 在宅、あすかい病院からの紹介、外来から在宅へ移行を含め新規契約件数を維持することができた。2019年度新規契約26件(中止20件)。</p> <p>[茶山のさと]</p>

		3月を終えて、何とか黒字確保はできたが予算には大きく乖離した。夏場の収益減が大きかったことと、費用の増加が目立った傾向としてあった。人材紹介・調剤業務など委託にかかる費用が大きく増加している。その他は比較的予算内で執行できているが、細かな費用調整・節減の積み重ねが必要。
	② 東山リニューアル着工を準備する人的・財務的条件づくりを進める。(本部課題・個別要請課題)	仮設診療所・東山診療所新築の設計・施工を野口計画管理・野口建設とすることを常務理事会として確認した。4月2日・4月14日野口計画管理と打合せ、新診療所ボリュームプラン、仮診療所プラン、スケジュール提示され、検討にはいる。5月常務理事会へ上記報告を行う予定。6月社員総会で投資等計画の承認をえる。
	③ さらに続くべき事業を法人中長期事業計画として策定する。(本部課題)	第7回(4月)を行った。 ○6月社員総会で報告するため、答申まとめ案の検討を行った。5月常務理事会へ答申報告を行う。 ○川端鍼灸治療院・川端診療所の事業所展開について検討を行った。当該所長とこの答申案についての検討状況の報告、意見を聞く機会をもつ。 ○茶山のさとの答申案検討を行った。施設展開・収支のメドが示された。修正・補強し引き続き行なう。 ○6月社員総会において骨子案を報告する。
(ウ) 組織強化と理念的活動の目標	① 対応する共同組織・ないしは、法人外のいずれかの地域・団体と、啓発・保健予防・健康づくり・健康増進いずれかに該当する取り組みを前年より一つ増やそう。(共通課題)	[あすかい病院エリア] HPH加盟への挑戦、地域の健康づくりと合せて職員の健康づくりを基軸におくことを目標とした。委員会開催、キックオフ集会の具体化をはかる予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため延期している。 [川端診療所エリア] 地域要求などは支部役員会やボランティア交流会等での情報に留まっていたが、この間久しぶりの患者宅での医療懇談会(この間は診療所施設を使用した形態)を開催し、地域に入っていく動きが少しでできた。診療所友の会から、地域に沿った共同組織への脱却を支部役員や職員全体で考え実現させる。そのための検討の場を2020年度にまたがり作っていく。 [東山診療所エリア] 健康講座の具体化や担当支部と懇談会の開催。東山SML研修を企画から参加し職員参加するなど計画が持たれている。また、自治会対象の無料低額職会議学習会の企画なども検討。月間は班会・支部会議開催目標以外は全て達成。友の会と共に地域に出かけることはできた。活動の日常化という課題が残る。次年度には診療所建替えが控えており、課題の解消に向けた取り組みが必要となる。 [大宅診療所] ○今期の4月以降、議論を重ね総会、そして1月の懇親懇談会で支部づくりにむけ動き始めたが中断、期間が空きすぎた為再度課題を整理してから取り組む必要がある。 [洛北診療所] 友の会役員、会員、職員で一緒に学べたことは非常に良かった。健康づくり・予防の大切さを地域に発信していく役割を再確認できた。 [茶山のさと] 新型コロナウイルス感染拡大の状況の中、保育園との交流など、ここ数年続けてきた取り組みが中止となったことは残念。年間通じては新たな小学校との交流や地域との交流機会もあり、前進が作れた。
	② すべての部署(事業所)が、SDHを学び、事例や身の回りの健康維持増進との関係を考える	[あすかい病院エリア] 第一回日常医療介護総括会議(4/25)開催 特別報告として「くらしむきアンケートのまとめ」や指定報告でも日常のSDHの視点での取り組みを報告、共有することを目指した。6/29 近畿地協「医療と介護の二つの柱実践交流会」に3演題応募、①無低利用者の生活保護に対する思いを知る～アンケート調査を通じて。② 回リハ病棟におけるソーシャルハイリスク患者の把握③日常活動から SDH 視点を

<p>場を持つ。(共通課題)</p>	<p>探る。2018 年度法人医療部から提起され取り組んだ暮らし向きアンケートに続き、今年度は熱中症アンケートに取り組んだ。秋の国保アンケートは 49 件の回収。より職員の SDH の視点でのアンテナの感度を高めていく。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で第三四半期以降の取り組みができていない。</p> <p>[川端診療所エリア] 川端診療所エリアの特徴でもある医療と介護の連携をすすめその強みを構築していくことで検討をすすめた。連携はされている(在宅等)が院所として在宅事業は拡大の方向ではないため、その他の連携で包括及び居宅と診療所との連携を検討する。</p> <p>[東山診療所エリア] SDH事例検討を部署で具体化する計画をもった。日常的なSDHの視点で見ることと情報共有。月水金のカンファレンス。公益減免更新面談を実施。日々の外来等で医師、看護師、事務で無低へのアンテナをはり、案内を行い制度利用につながる事例があった。</p> <p>[大宅診療所] ○年度を通じて発表に値する事例がありながらエリア内ですら共有出来ていない。抜本的改善が必要。</p> <p>[洛北診療所] 運用が不十分なところが多いため、学習の積み重ね、しくみの定着を図る。</p> <p>[茶山のさと] SDH の学びは研修の中で主に位置づけて取り組んだが、発表方法の工夫などが新しく、今後の取り組みにつながればと思う。次年度も目標の中に位置づけており、学びの深化と質の向上につながることを期待する。</p>
	<p>③ 会費問題を含む共同組織のあり方について調査研究しながら課題整理し、方針を提案し検討を行う。(本部課題)</p> <p>○方針検討学習会を2月29日(土)に再度開催予定したがコロナ対策として中止。居場所づくり方針と運営規定を確認。居場所申請書確認。共同組織方針(案)については各役員で読了し、4月中旬に意見・質問・感想用紙に記入し集約し、5月中旬にQ&Aを発信する。</p> <p>○2020年度課題は、討議し理解を深め、2021年度に制度移行することが課題。</p>

19法人目標		数値追跡①2次健診数													医療部集約	
	18実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	比較	
あすかい病院	358	21	26	26	29	33	42	22	29	42	44	21	23	358	100.0%	
洛北診療所	42	4	3	4	3	3	6	4	8	6	4	4	7	56	133.3%	
川端診療所	32	5	5	5	5	5	5	5	5	9	5	2	2	58	181.3%	
東山診療所	63	0	2	0	2	0	0	0	0	0	2	1	0	7	11.1%	
大宅診療所	134	15	13	14	11	4	10	15	21	17	7	11	13	151	112.7%	
合計	629	45	49	49	50	45	63	46	63	74	62	39	45	630	100.2%	

【月次評価】

※2018年度より、既に慢性疾患等で受診されている方は、この数値指標から除外して集計している。しかし、東山診療所のみ前述の慢性疾患等で受診されている方も2018年度集計に含んでいる。2019年度からは、すべての事業所が同じ指標で集計している。この指標は、新規患者獲得指標のひとつ。

上記の通り、法人全体で前年比較はできないが、東山診療所を除けば、110.0%となり、下記の2019年度法人目標に対し、10%の達成を行ったとの評価ができる。
【(イ) 事業の目標①特に健診・初診・新規利用者の獲得の具体的な目標・方法と第二中央病院南館リニューアル完成の新たな条件を意識しつつ、予算を達成する。】

2019法人目標 数値追跡②在宅訪問診療件数 変動部分のみ入力 中止数にはマイナスをつける 他は自動計算

上半期	18実績	4月		5月		6月		7月		8月		9月		上半期		18比	上半期到達	
		変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増			
あすかい病院	353	新規	11	1	12	3	4	▲5	13	8	18	13	7	71	27	107.6%	380	
		中止	▲10		▲9		▲9		▲5		▲5		▲6		▲44			
洛北診療所	52	新規	1	0	1	▲1	0	▲2	2	1	3	1	3	▲1	10	▲2	96.2%	50
		中止	▲1		▲2		▲2		▲1		▲2		▲4		▲12			
川端診療所	30	新規	0	▲2	0	0	0	0	▲1	1	1	▲1	1	2	▲3	90.0%	27	
		中止	▲2		0		0		▲1		▲2		0		▲5			
東山診療所	171	新規	11	3	3	▲5	11	1	9	5	6	▲2	4	44	2	101.2%	173	
		中止	▲8		▲8		▲10		▲4		▲8		▲4		▲42			
大宅診療所	90	新規	5	▲1	4	1	4	▲2	4	1	6	4	2	25	1	101.1%	91	
		中止	▲6		▲3		▲6		▲3		▲2		▲4		▲24			
合計	696	新規	28	1	20	▲2	19	▲8	28	14	34	15	23	152	25	103.6%	721	
		中止	▲27		▲22		▲27		▲14		▲19		▲18		▲127			

下半期	18実績	10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		18比	年間到達	
		変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増	変動	純増			
あすかい病院	353	新規	10	0	9	0	12	▲4	8	0	8	▲1	10	0	128	22	106.2%	375
		中止	▲10		▲9		▲16		▲8		▲9		▲10		▲106			
洛北診療所	52	新規	2	2	2	1	3	▲1	5	5	0	0	4	26	6	111.5%	58	
		中止	0		▲1		▲4		0		0		▲3		▲20			
川端診療所	30	新規	0	0	0	0	1	1	0	▲2	0	0	0	3	▲4	86.7%	26	
		中止	0		0		0		▲2		0		0		▲7			
東山診療所	171	新規	4	▲5	9	1	11	1	5	2	4	3	9	86	12	107.0%	183	
		中止	▲9		▲8		▲10		▲3		▲1		▲1		▲74			
大宅診療所	90	新規	8	5	6	5	0	▲7	4	▲2	1	▲1	5	49	3	103.3%	93	
		中止	▲3		▲1		▲7		▲6		▲2		▲3		▲46			
合計	696	新規	24	2	26	7	27	▲10	22	3	13	1	28	292	39	105.6%	735	
		中止	▲22		▲19		▲37		▲19		▲12		▲17		▲253			

【月次評価】

年度トータルでは、前年度の法人到達から105.6%、39件の増となった。川端診療所のみ前年比を割ることとなった。終了以上の新規確保ができた。あすかい病院では、体制確保とあわせコース増で対応するなど、新規確保数にみあったスタッフ確保と臨時、緊急に対応できる往診サービスがあって維持できている。

【2】法人組織の概況

(1)社員総会、理事会、常務理事会の開催状況と決議

1)社員総会の決議

開催日時	社員総数	出席(本人、委任)	重要な議事・決議事項
2019年06月19日(水)(定時)	115名	112名(97.3%)	2018年度事業報告・決算報告・役員選出

2)理事会の開催状況

開催日時	定数	出席	重要な議事・決議事項
2019年06月19日(第1回)	25	21	理事長、副理事長、専務理事、常務理事の互選について。
2019年07月23日(第2回)	25	中止	台風5号の影響で、危険な風雨の状況により急遽中止した。
2019年09月24日(第3回)	25	21	5ヶ月経過の収支結果、2019年度法人目標進捗の確認と課題推進のためのプロジェクト設置、秋の共同組織月間の取組。
2019年11月26日(第4回)	25	22	上半期経営到達と下半期対策、上半期決算監査報告、賞与短期借り入れについて、2019年度法人目標進捗と課題推進のためのプロジェクト報告、信和会・あすかい病院創立65周年記念事業について、ISO再認証報告、共同組織強化月間の取組。
2020年01月28日(第5回)	25	22	第三四半期状況、2019年度法人目標進捗の確認、東山診療所新築移転事業PJ・信和会の共同組織のあり方PJの報告、2020年度法人目標と予算の確認、共同組織強化月間の経験交流。

2020年03月24日(第6回)	25	23	2月収支結果と年間予算達成状況の見通し、東山診療所新築移転事業PJ、信和会・あすかい病院創立65周年記念事業について、4週8休制移行について。
2020年05月26日(第7回)	25	23	2019年度事業・決算・監査報告について、信和会中長期事業計画(案)策定PJの骨子(案)報告について、東山診療所新築移転事業PJから進捗の状況について、定時社員総会準備について。
平均出席率	88.0%		前期83.4%

3) 常務理事会の開催状況

開催日時	定数	出席	重要な議事・決議事項
2019年06月21日(臨時)	10	7	夏季賞与短期借入れについて。
2019年07月16日(第1回)	10	9	第一四半期経営と法人目標の進捗状況、東山診療所新築移転事業について。
2019年08月20日(第2回)	10	9	法人個別目標・共通課題・数値集計及び事業所エリア目標の進捗、信和会の共同組織のあり方PJ報告について、常務理事会・理事会オブザーバー参加の確認。
2019年09月17日(第3回)	10	8	介護職員等特定処遇改善加算取得について、信和会中長期事業計画(案)策定PJ・幹部人事検討PJ・共同組織あり方PJの設置の確認、秋の共同組織強化月間について。
2019年10月15日(第4回)	10	10	秋闘対応、9月収支結果について、2019年度法人個別目標・共通課題・数値集計及び事業所エリア目標の進捗について、信和会65周年記念事業実施の確認、幹部人事PJ報告、東山診療所新築移転事業PJ報告、信和会の共同組織のあり方PJ報告について。
2019年11月19日(第5回)	10	9	上半期決算監査、上半期マネジメントレビューの実施、年末賞与の借入れについて、信和会中長期事業計画(案)策定PJ報告、東山診療所新築移転事業PJ報告、信和会の共同組織のあり方PJ報告。
2019年12月17日(第6回)	10	8	2020年度予算編成について、信和会中長期事業計画(案)策定PJ報告、東山診療所新築移転事業PJ報告、信和会の共同組織のあり方PJ報告、全日本民医連第44回総会(熊本)代議員選出。12月路上生活者支援行動。
2020年01月21日(第7回)	10	9	2020年度法人目標の確認・予算の検討、信和会中長期事業計画(案)策定PJ報告、東山診療所新築移転事業PJ報告、信和会の共同組織のあり方PJ報告、幹部人事検討PJ報告、4週8休制移行について。
2020年02月18日(第8回)	10	10	2020年度予算検討、社員総会日程(6/17)と召集を確認、4週8休制について、信和会中長期事業計画(案)策定PJ報告、東山診療所新築移転事業PJ報告、信和会の共同組織のあり方PJ報告、幹部人事検討PJ報告、信和会・あすかい病院創立65周年記念事業PJ報告について。
2020年03月17日(第9回)	10	10	2月収支と経営課題、2020年度予算の第四次での確定、信和会新型コロナウイルス感染症対策本部設置(3/2)、4週8休制移行について、信和会中長期事業計画(案)策定PJ報告、東山診療所新築移転事業PJ報告、信和会の共同組織のあり方PJ報告、幹部人事検討PJ報告、信和会・あすかい病院創立65周年記念事業PJ報告について。
2020年04月21日(第10回)	10	9	3月収支と決算前累計結果について、2019年度法人目標の到達について、監査日程と資料提出について、新型コロナウイルス感染症対策について、東山診療所新築移転事業PJ報告につ

			いて。
2020年05月19日(第11回)	10	9	新型コロナウイルス感染症対策について、中長期事業計画(案)策定PJの答申(案)について、東山診療所新築移転事業について、ISO7月維持審査対応について。
2020年06月16日(第12回)	10	10	定時社員総会運営について、法人マネジメントレビュー、公認会計士2019年度決算報告所見と第1四半期の課題、新型コロナウイルス感染症対策、東山診療所新築移転事業PJについて。
平均出席率	90.0%		前期94.4%

社員総会、理事会、常務理事会とも定期的な開催・運営を努めましたが、第2回理事会は台風の影響をうけ急遽中止としました。2019年度社員総会は97.3%参加でした。年間を通した理事会参加は83.4%から88.0%と前進しました。常務理事会は94.4%から90.0%となりました。

常務理事会運営を補完し課題遂行する目的で、法人事務系常務理事・事業所事務長・病院事務長室・本部員合同会議を毎月定例開催しました。また新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけ、会議開催は感染防止策により会議の短時間・WEB機能を使った運営を行いました。本部事務局常駐管理者会議も月次で開催しました。事業所幹部人事体制を検討することを目的に、幹部人事検討チーム会議を再会し開催しました。

各部・委員会は定期開催され、諸課題の遂行に当たりました。19年度年度総括と20年度方針を確定し、新年度の課題を決めました。

全期間を通して、19年度事業計画の推進を図る運営が貫かれました。2019年4月よりあすかい病院の病院名変更と院長交代を果たし、新しい体制でのスタートを切ったのが特徴です。経営課題や法人目標の実現については、四半期毎に到達と課題を鮮明にして取り組みました。

(2) 施設の状況

1) 施設

2019年度の変更はありませんでした。

施設名	所在地	開設年月日
法人本部	左京区田中飛鳥井町 89	1955年1月12日
安井病院	左京区田中飛鳥井町 89	1955年7月11日 (病院名変更)
京都民医連第二中央病院		1997年5月1日 (病院名変更)
京都民医連あすかい病院		2019年4月1日 (病院名変更)
ケアプランセンター飛鳥井	左京区田中飛鳥井町 78 変更→左京区田中玄京町 106-2 変更→田中飛鳥井町 46	2000年4月1日 2011年5月16日 2019年3月1日
京都市左京南地域包括支援センター	左京区川端通夷川上新生洲町 97	2006年4月1日
京都民医連あすかい診療所	左京区田中飛鳥井町 43-7	1999年11月19日
京都民医連あすかい歯科	同上	2004年10月1日
川端診療所	左京区川端通夷川上新生洲町 100	1954年5月7日
京都民医連洛北診療所	左京区岩倉忠在地町 529	1996年10月31日
訪問看護ステーションたんぼぼ	左京区田中里の前町 43 変更→田中玄京町 106-2 変更→田中飛鳥井町 45	1993年8月31日 2011年6月11日 2019年3月1日
訪問看護ステーションたんぼぼ併設ヘルパーステーションこでまり	左京区田中里の前町 43 変更→田中玄京町 106-2	2000年4月1日 2011年6月11日

	変更→田中飛鳥井町 45	2019年3月1日
訪問看護ステーションひまわり	左京区川端二条上ル新生洲町104 リヴァク鴨川II 1階	2001年7月1日 2014年2月28日廃止
高原デイサービスセンター	左京区田中高原町26	2003年2月1日
東山診療所	東山区今熊野宝蔵町43	1952年7月27日
訪問看護ステーションどんぐり	東山区今熊野栲の森町7-14	1996年3月31日
訪問看護ステーションどんぐり併設ヘルパーステーションくるみ	東山区今熊野栲の森町7-14	2000年4月1日
泉涌寺湯デイサービスセンター	東山区泉涌寺東林町20-16	2003年2月1日
大宅診療所	山科区大宅早稲ノ内町2	1984年7月2日 (法人開設) 2002年3月1日
田中デイサービスセンター	左京区田中玄京町106-2	2011年3月1日開所 2016年7月31日廃止
介護老人保健施設茶山のさと	左京区田中上大久保町15	2011年11月3日開所
訪問看護ステーションひまわり	山科区小野西浦68-8 レジデンス1階奥 山科南総合ケアステーション内	2014年7月1日開所
ケアプランセンター虹		2014年10月1日移行
ヘルパーステーションとまと		2014年10月1日移行 2018年3月31日廃止

2) 施設数の推移

2019年度は変更ありませんでした。

	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
病院	1	1	1	1	1	1	1	1
医科診療所	5	5	5	5	5	5	5	5
歯科診療所(併設)	1	1	1	1	1	1	1	1
訪問看護ステーション	3	2	3	3	3	3	3	3
ヘルパー派遣事業	2	2	3	3	3	2	2	2
デイサービスセンター	3	3	3	3	2	2	2	2
介護老人保健施設	1	1	1	1	1	1	1	1
施設数合計	16	15	17	17	16	15	15	15

3) 介護保険指定事業所

2019年度は変更ありませんでした。

サービス種別	事業所名	指定年月日	事業者番号	備考
(介護予防)訪問介護 (京都市介護予防・日常生活支援事業)	こでまり	00/4/1	60690021	たんぼぼ併設
	くるみ	01/2/1	60890035	どんぐり併設
	大宅診療所	02/6/1	14102230	診療所併設 14/9/30 移行
	とまと	02/6/1	64190085	14/10/1 大宅診より移行 18/3/31 廃止
(介護予防)訪問看護	たんぼぼ	00/4/1	60690021	
	ひまわり	01/7/1	60690070	14/2/28 付け廃止
	どんぐり	00/4/1	60890035	
	洛北診療所	00/4/1	10606093	診療所併設 みなし指定
	大宅診療所	02/3/1	14102230	診療所併設 みなし指定
	ひまわり	14/7/1	64190085	14/7/1 新規開設

(介護予防)通所介護 (京都市介護予防・日常生活支援事業)	高原デイサービス	03/4/1	70600440	定員 25 名
	泉涌寺湯デイサービス	03/4/1	70800198	定員 22 名
	田中デイサービス	11/3/1	70600713	定員 15 名 16/7/31 廃止
(介護予防)通所リハビリ	第二中央病院・なの花	00/4/1 09/3/1 12/11/21	10601342	定員 40 名—みなし指定 定数 30 名 2 単位に変更 定員 30 名 1 単位に変更 16/5/31 付け廃止
	あすかい診療所	16/6/1	10606342	定員 35 名 みなし指定
	川端診療所	00/4/1 09/3/1 16/4/1	10604080	定員 20 名 みなし指定 定数 30 名 2 単位に変更 定員 35 名 2 単位に変更
	東山診療所	00/4/1	10803013	定員 28 名 みなし指定
	大宅診療所	02/3/1	14102230	定員 20 名 みなし指定
	介護老人保健施設茶山のさと	11/11/3	50680099	定員 30 名 (2013 年 4 月 1 日より定員 35 名)
	(介護予防)短期入所療 養介護	第二中央病院	00/4/1 11/11/2	10601342
介護老人保健施設茶山のさと		11/11/3	50680099	開設
居宅支援事業	川端診療所	00/4/1	10604080	開設
	大宅診療所	02/3/1	14102230	診療所併設 14/9/30 移行
	ケアプランセンター虹	02/3/1	64190085	14/10/1 大宅診より移行
	どんぐり	00/4/1	60890035	開設
	ケアプランセンター飛鳥井	00/4/1	70600572	06/10/1 第二より移行
(介護予防)訪問リハ	あすかい病院	10/1/1	10601342	みなし指定
	東山診療所	16/10/1	10803013	みなし指定
(介護予防) 居宅療養管理指導	あすかい病院・あすかい・ あすかい歯科・川端・洛 北・大宅・東山	00/4/1		みなし指定 あすかい診 16/3/31 廃止、第二 中央病院へ 16/4/1 移行
介護予防支援事業	京都市左京南地域包括 支援センター	06/4/1	00600023	開設
介護療養型老人保健施設	介護老人保健施設茶山のさと	11/11/3	50680099	開設

(3) 共同組織の状況 略

(4) 役員の状況 略

(5) 常勤職員の状況(各年度期末現在数) 略

【3】経営の概要

(1) 経営活動の結果

2019 年度経営結果

経常利益 149,327 千円 収益比 0.2%

予算比較 (予算 125,571 千円) 予算比 118.9% +23,756 千円

前期比較 (前期実績 67,823 千円) 前期比 220.02% +81,504 千円

当期純利益 137,819 千円

予算比較(予算 125,571 千円) 予算比 109.8% 12,248 千円

前期比較 (前期実績 9,343 千円) 前期比 +128,476 千円

2019 年度経営結果特徴

2019年度は経常利益で149,327千円となり、予算125,571千円に対して23,756千円の超過達成とすることができました。

2019年度予算は、南館建設資金返済が本格的に始まる年でもあり、予算作成においては田中先生を招いての学習会も行い、資金計画上の必要利益から予算目標を100,000千円と提起して努力し作成したものであり、最終的に23,756千円超過達成したのは大きい。もともと2019年度で提起した100,000千円の利益予算目標では資金的には前年比較で▲50,000千円の資金減の予算だったが、当期純利益が137,819千円となったことなどもあり資金的には前年増となったのは非常に大きい。

また、2019年度予算においては、あすかい病院で簡易的資金獲得指標である償却前利益が年間の建設資金返済額の101,000千円(建設90,000千円、医療機器他11,000千円)を超過できる予算とすることができるかが大きなポイントであったが、結果2019年度予算は償却前利益で129,678千円(経常利益△44,010千円・減価償却費173,688千円)と年間返済額を賄える予算作成となり、病院での予算達成ができるかが重要な目標でした。

2019年度の結果としては、経常利益予算を達成し当期利益で△23,452千円となり、減価償却費は174,036千円だったので、償却前利益は150,584千円となり自前で返済資金を賄えるまで改善できています。

経常利益で予算・目標利益を超過達成したものの、その特徴は事業収益では予算比で97.8%(△128,693千円)と予算に乖離しており、事業費用では予算比97.4%(△149,904千円)と事業収益の予算不足以上に抑えたことによるものです。事業費用では人件費・材料費・減価償却費・リース料で予算内に抑えています。人件費は予算比で96.3%(△155,987千円)と特に大きなものとなっています。前年実績比でも100.3%(+11,456千円)と2%増を前提にしていた人件費の伸びを大幅に下回っています。予算比での減少は、2018年度同様に時間外対策の中で時間外の削減、職員総数が減少での人員不足(産休・育休含む)に加え、決算での退職給付引当金の減額修正(要支給高100%計上時の増差額処理)も大きく影響しています。前年比較では繰入額全体を減少したことも人件費前年実績比を押し下げに大きく影響しています。

業態別で見ると、医科事業所全体で大幅に予算を達成し、前年比較でも大きく超過することとなりましたが、介護事業所全体では、予算に大きく乖離し前年実績にも届かないという結果となりました。

医科事業所

医科事業所では、2018年度に引き続き病院は予算・前年ともに大きく超過、診療所全体としても予算・前年ともに超過(2018年度は病院で予算・前年超過したが、診療所全体では予算・前年未達成)という結果となっています。診療所全体では予算・前年実績超過ですが、それぞれで少し状況が違ってきます。①予算前年実績超の事業所(あすかい歯科・川端診療所・大宅診療所)、②予算は超過達成したが前年実績に届かず(東山診療所)、③予算未達成だが前年実績は超過(あすかい療所と洛北診療所)。

介護事業所

介護事業所では、南包括・訪看ひまわり・CP飛鳥井が経常利益で予算・前年実績超過となったものの、他の事業所で予算達成はなく、多くの事業所で予算未達成・前年実績を下回る結果となり苦戦しています。

事業収益は予算比97.8%・△128,693千円、前年実績との比較では102.5%となり137,522千円の超過となりました。

前年比較では、事業収益全体では102.5%+137,522千円と前年実績超過しました。うち医業収益は103.1%+134,720千円、介護は100.2%+2,802千円と医療・介護収益ともに前年実績は超過となっています。収益構成は医業78.1%・介護21.9%となり、入院収益・在宅収益の増加もあり、介護収益の比率がさらに下がり(2018年度も2017度より下がっている)、医業収益の比率が増加しています。

入院分野は、予算比97.4%△60,028千円と予算に届きませんでした。年度当初の「緩和ケア」病床の遅れや、セラピストの退職・産休等の影響が大きい。ただし、病棟構成の改善(2018年度より取り組んだ障害者病棟の廃止を見込んだ長期入院患者への対応)、緩和ケア病床での類上げなどもあり、前年比較では104.0%+85,649千円と大きく超過(平均稼働率96.6%→98.1%、入平均入院日当円36,060円→37,465円)しています。

外来分野は、外来収益全体で予算比98.5%△32,735千円と届きませんでした。前年実績では101.8%+38,135千円の超過となりました。予算比較では、あすかい病院と大宅診療所で予算超過となりましたが、大宅診療所を除く他の診療所で予算が未達成となりました。前年実績比較では、東山診療所で前年実績比96.4%△8,059千円・洛北診療所で前年実績比97.3%△2,507千円と届いていませんが、あすかい病院で前年実績比102.3%+13,713千円をはじめとしてあすかい診療所・あすかい歯科・川端診療所・大宅診療所で前年実績超過となりました。

在宅収益は、あすかい病院と大宅診療所以外の医科事業所で予算に届かず、病院で予算比102.0%+5,254千円・大宅診療所で予算比105.8%+4,391千円とするも全体として予算に届かなかった。また前年実績比較でも、あすかい病院・大宅診療所・洛北診療所を除く他の医科事業所では前年実績美届いておらず、病院での前年実績比110.8%+25,500千円により全体として前年実績比103.5%+21,698千円となっている。

介護収益は、すべての介護収益で予算に届きませんでした。前年実績比較では施設収益で106.2%+19,993千円となるも、居宅収益で98.7%△9,823千円、その他介護収益95.9%△7,474千円。

事業所別では、医科事業所では川端診療所のみ予算達成(113.3%+12,275千円)、前年実績超過(103.2%+3,221千円)、介護事業所ではHSこども・南包括で予算達成と前年実績超過し、HSくるみ・CPあすかいで介護収益が予算未達成だが、前年実績は超過しているが、その他の事業所では予算に届かず、前年実績にも届かず苦戦している。

事業費用については、予算比97.4%(▲149,904千円) 前年実績比100.9%(+50,356千円)。

人件費は、予算比で96.3%△155,987千円と予算内となり、前年比100.3%+11,456千円となっています。退職引当金減額の影響もあり、定昇を加味し2%増を想定していたにもかかわらず、前年実績比較では0.3%にとどまりました。信和会全体の人件費率は、2015年度の71.1%、2016年度72.6%、2017年度73.3%へ増加していたが、2018年度は71.9%、2019年度は70.4%と2年連続で下がる結果となりました。特にあすかい病院での人件費率は2017年度の74.5%から2018年度71.6%そして2019年度の69.3%へと減少してきています。退職引当金は2019年度で期末要支給額の100%としています、期末での残高不足を心配していましたが逆に帳簿残高>期末要支給額となり8,629千円の減額となっています。

材料費は、予算比96.5%△14,270千円、前年実績比では96.9%△12,836千円。

委託費は、予算比103.7%+8,472千円、前年比較113.2%27,784千円。

経費は、予算比105.5%27,332千円、前年比較では101.5%7,881千円。

減価償却費は、予算比97.0%△7,261千円、前年比較では102.9%+6,483千円。

リース料は、予算比73.7%△12,146千円、前年比較94.2%+2,115千円。特に川端診療所では、予算比△9,116千円ですが、前年比較は△14となっています。法人全体でリース料の前年実績の増減に比べて、予算比較での増減が大きいのは、川端診療所での予算のリース料が過大計上だったことが考えられます。川端診療所での予算超過はリース料の過大計上の影響も大きいといえます。

主な決算修正では、人件費全体で22,959千円の減額修正(期末未払給与=常勤△396千円・非常勤+2,465千円、賞与引当金=△8,172千円、退職給付引当金=14,590千円、労働保険料や賞与社保料の精算=△2,383千円)。

経費全体で7,807千円の増額修正(看護奨学金等の免除額と予算との差額、前払費用の火災保険料の当年分)。

減価償却費全体で7,261千円の減額修正(年間投資が予定より少ない、購入時期の遅れ)

近畿高等看護学校損失補填4,981千円、固定資産購入に係わる消費税4,991千円など特別損失で処理。

なお今年度も退職引当金の基準変更に伴う処理分56,743千円の特損への振替は行いませんでした。

【4】事業所管理委員以上の人事(2019年4月1日~2020年3月31日) 略

【5】その他、重要な処理事項

特になし。

(以上)